

が外人選手を入れるようになれば、テッドこそその人だ、と私は心に決めた。

私の希望は七九年に実現した。そしてテッドは期待を裏切らなかつた。来日して二年目に、西武チームはジャパン・リーグで優勝し、テッドは特別賞（最優秀外国人選手）に選ばれたのである。昨シーズンには、彼は三回、優秀ディフェンスマンに選ばれている。

テッドは、西武だけでなく、日本のアイスホッケー界全体に大きな影響を与えた。彼の態度、目標、果敢さ、テクニック——すべてに、日本人プレーヤーは注目した。私は他チームの監督から、テッドみたいなカナダ人選手はほかにいなだろつか、とよく相談を受ける。そんなとき私は、テッドが日本におけるカナダ人のイメージ・アップに大いに貢献しているのを知つて、非常に嬉しくなる。

昨シーズンが終わつた後、堤義明・西武鉄道社長から、テッドをチームのコーチにしたいという提案があつた。これは単に戦力強化の面だけでなく、アイスホッケーの世界で西武とカナダの結びつきを一層強化できる良策であつた。テッドと日本との関係は、十年前に遡る。当時彼は、ブリティッシュ・コロニア大学（UBC）の夏期アイスホッケ教室で教えており、西武はデビッド・パワー神父の紹介で選手を教室に参加させることにした。それ以来、西武は毎年、選手たちを同大学に派遣しており、テッドもまた夏期スクールの講師を続けている。

こうしたUBCチームとの長年にわたる友好関係を記念して、西武チームは今年八月、UBCチームを日本へ招待し、國土チームを加えて、三者で友好試合を開催した。これは、テッドが西武のコチに就任して最初の試合であった。

テッドは、日本人にアイスホッケーの精神と技術を教え、カナダとカナダ人に熱心だ。西武に身を置いて日本の会社の精神で身をもつて教えてくれた。だが教えるだけでなく、日本から学ぶことにも

テッドは、日本にアイスホッケーの住むテッド・マクニーリーは、今日も品川・プリンスホテルのアイスマリーナで練習に励んでいる。

（西武鉄道アイスホッケーチーム監督）

一九六二年、オンタリオ州ウォータールー大学を卒業。その年、ハミルトン市にあるマクマスター大学の保健体育教育

の特別コースに進む。大学時代の花はここで咲く。翌年、全カナダ大学選手権で優勝し、オールスターのライトワインガードとしてベスト6に選ばれる。アイスホッケープレーヤーとして、彼の地位と名前は広く知れわたることになった。

その名声は、日本にも届いた。マクニニアード大学で一年間の勉強を終えたとき、彼は日本のアイスホッケー連盟から手紙をもらった。「日本でやつてみないか」という打診であつた。当時は十分な資金もなく、残念ながらこれをことわつた。

そして、ウッドストックの高校教師になり、経済・地理と体育を教える。アイスホッケーのほかフットボール、テニス、ゴルフ、水泳、陸上のコーチとして大活躍する。

りわけアイスホッケーには熱中した。六歳のころからすでにホッケーシューズをはいていた。

ジユニア、シニアとチャンピオンチ

ムに加わり、いつも最優秀選手として活躍した。全オントリオ高校選手権では、

三回も優勝している。

## ゲン・ハマダ

### ホッケーボーイを兼ねる事業家

多田 正俊



ハマダ氏

国鉄大阪駅から歩いて五分、梅田の北寄りに総合スポーツ施設「梅田スポーツ・ガーデン」がある。ここに西日本で最大・最強のアイスホッケー・チームがあることは、うかつにも知らなかつた。小学生、中学生、高校生を中心に総勢六十四

ムの生みの親で、コーチもつとめているのが日系カナダ人と知つて、驚いた。チームが結成されて今年で、もう九年目に

なる。

商いの都・大阪にはじめて青少年のアイスホッケー・チームを育てたのは、ゲン・ハマダ氏だ。身長一・六四メートル、四十五歳。みごとな口ひげを生やし、微笑が絶えない。ソフトな物腰は、大学の先生を連想させる。

ハマダ氏は一九三八年五月、バンクーバーで生まれた。両親はともに島根県境港の出身で、日系二世となることになる。

家族は兄が二人、弟、妹がそれぞれ一人。ホッケーボーイとして、一シーズンの契約を交わし、来日した。一九六九年のことである。

「私はカナダ人ですが、血は一〇〇パ